

田水郷 通信

宮城県農政部農村振興課

12月号
2022 Vol.7

◆ Topics

- “現場知”の継承へ 農業・農村における災害対応シンポジウム
- 田んぼダム全県普及に向けて 田んぼダム出前講座
- 来たれ未来のNN職員！！ 総合土木職業務説明会
- 田水郷コラム「宮城の冬に根付く 伝統野菜はいかが？」



第8回農美里フォトコンテスト水土里ネットみやぎ会長賞受賞作品
「たのしいな」

“現場知”の継承へ 農業・農村における災害対応シンポジウム

未曾有の大災害となった東日本大震災では、これまでの経験や常識が通用しない多くの場面に直面しました。そうした困難な状況において、知恵を出し合い工夫をしながら問題解決を図った経験（＝現場知）を共有し、後世に引き継ぐとともに、今後の農業農村整備の展開を考える一助とするため、10月28日にシンポジウムを開催しました。



▲県庁2F講堂
シンポジウム開催状況

令和4年10月28日(金)
会場：宮城県庁2階講堂 WEB配信形式での参加も可

未曾有の大災害となった東日本大震災では、これまでの経験や常識が通用しない多くの場面に直面しました。そうした困難な状況において、知恵を出し合い工夫をしながら問題解決を図ったその経験（＝現場知）は、一律に適用できるものではありませんが、多様な対応を求められる災害時には貴重な財産であると考えています。今回、東日本大震災への対応で得た経験を共有し後世に引き継ぐとともに、今後の農業農村整備の展開を考える一助とするため、シンポジウムを開催するもので。

プログラム	参加申し込み
13:30 開会の挨拶 農政部長 宮川 翔一	シンポジウムは対面形式(県庁2F講堂)及びWEB配信形式(YouTube Live 配信)にて実施します。対面形式は会場の都合から最大150名、WEB配信形式は制限なく参加(視聴)いただけます。 参加申し込みについては、電子申請システムにより受け付けいたしますので、令和4年10月18日(火)までに下記URLより情報登録をお願いします。 (参加申込URL) https://www.shinsei.elg-front.jp/miyagi2/uketsuke/form.do?as=saigataicu_symposium
13:35 基調講演「災害対応としての「現場知」を再考する」 信州大学学術研究院農学系 准教授 内川 義行 氏	
14:20 発表「宮城県多賀城高等学校の防災教育から考える、自然災害と農業」 宮城県多賀城高等学校防災科学科1年 紀定 実乃 さん、志藤 彰彦 さん、本田 大晟 さん、三浦 亜那 さん、山本 隆 さん ～休 憩～	お問い合わせ先・その他 宮城県農村振興課企画調整室 ■Tel: 022-211-2853 ■Fax: 022-211-2890 ■mail: nosonship@pref.miyagi.lg.jp ※このシンポジウムは、農業農村工学会の技術者継続教育認定プログラムに位置づけられています。
15:00 パネルディスカッション コーディネーター 信州大学学術研究院農学系 准教授 内川 義行 氏 [パネリスト] 宮城県農業機械学専攻 教授 棚古 雅春 氏 東北大学大学院農学系生命科学研究所 准教授 橋本 伸 氏 東北農政協農村振興部 部長 川村 文洋 氏 宮城県農政部長 副部長 金満 豊洋 氏	
16:20 閉 会	

主催：宮城県、宮城県農村振興技術連盟 後援：公益社団法人 農業農村工学会、農村計画学会

▲シンポジウム案内ポスター

第1部・基調講演

基調講演として、東日本大震災への対応で得られた現場知の記録「農業・農村震災対応ガイドブック2018」の編纂に携わった信州大学の内川先生をお招きし、「災害対応としての現場知を再考する」と題して講演をいただきました。



信州大学 内川准教授

基調講演：
「災害対応としての現場知を再考する」

講演資料(抜粋)▶

3. 災害「現場知」の継承について

【特性と課題】から

- 被災現場での対応は場所により異なる(固有性)
特定の場面で有効なことも (状況依存性) →一般定式化が困難

- 緊急時(平常時ではない)
ゆえの判断は、定式的、マニュアル的判断を超えざるを得ないが・・・

- 答えのないものへの対応力をいかに獲得できるか？

臨機に対応できる現場対応力・次世代人材育成

(いつの時代でも言われてきたことだが、スピード急速化
VUCA時代 変動性・不確実性・複雑性・曖昧性
Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguityの頭文字を取った造語)



通常の教育、研修方式での学びの限界・・・

第1部・発表

基調講演の後には、東日本大震災を契機に防災系の専門学科が設置された多賀城高等学校の生徒5名から、防災教育の概要と取組内容について発表いただきました。



多賀城高等学校災害科学科のみなさん

発表：「宮城県多賀城高等学校の防災教育から考える、自然災害と農業」

発表資料(抜粋)▼

伝承(伝えること)の重要性

多賀城津波伝承「まち歩き」MAP
イオン多賀城
JR多賀城駅コース

2011.3.11 東日本大震災 TSUNAMI
津波の被害を受けた地域をめぐって、防災教育の重要性を再考する。

多賀城高等学校の防災教育の概要と取組内容について発表いただきました。

第2部・パネルディスカッション

第2部として、信州大学の内川准教授をコーディネーター、宮城大学の郷古教授、東京大学の橋本准教授、東北農政局の川村農村振興部長、宮城県農政部金須副部長をパネリストとして、現場知の「認知」・「継承」・「展開」を主要テーマに、パネルディスカッションを実施しました。

【コーディネーター】



信州大学
内川准教授

パネルディスカッションでは
活発な意見交換が行われました▶



【パネリスト】



宮城大学
郷古教授



東京大学
橋本准教授



東北農政局
川村農村振興部長



宮城県農政部
金須副部長

内川准教授から、現場知への関心を深める上で、以下の3点が効果的との総括がありました。

- ✓ 非常時には既存の専門知やマニュアルだけでは対応しきれないという認識を意識し、それを伝え共有することが大切である。
- ✓ その上で、教育・研修等の人材育成の在り方を変える必要がある。
- ✓ 日々の仕事の疑問や現場での解決・提案等を思いつくまま記録することを提案。

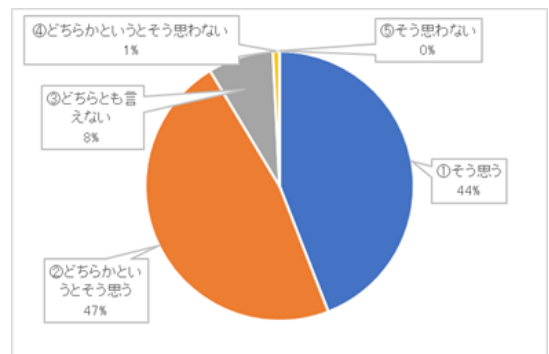
シンポジウムは県庁2階講堂における対面形式（115名参加）での開催のほか、YouTubeLive配信によるオンライン形式（189名参加申込）でも実施しました。

シンポジウム終了後に実施したアンケートでは、現場知の習得や活用等に係る多くの意見が寄せられました。

（感想意見抜粋）

- 「現場知」という言葉、概念を初めて耳にしたが、非常に良い知見を得られたと思う。
- 伝承していくことの難しさを痛感した。今後の防災減災にこれまでの現場知が大いに役立つことを期待したい。

Q.本シンポジウムはご自身の業務・仕事等に活用できる内容でしたか？



田んぼダム全県普及に向けて 田んぼダム出前講座

県が推進している田んぼダムの役割や仕組みを学んでもらう出前講座を、昨年度に引き続き実施しました。今年度はこれまで県内の小学校3校から申し込みをいただき、延べ117名の児童のみなさんに講座を受けてもらいました。

講座では、スライドを用いての説明や模型実験のほか、大和町立鶴巣小学校及び美里町立中埴小学校においては、ロート型堰板（田んぼダムで使用する黒い板）に絵付けをしてもらい、田んぼダムについての理解や関心を深めてもらいました。

9/20仙台市立郡山小学校



10/18大和町立鶴巣小学校



11/15美里町立中埴小学校



来たれ未来のNN職員！！ 総合土木職業務説明会

12月12～13日にかけて、北里大学獣医学部及び弘前大学農学生命科学部において、宮城県総合土木職（農業土木分野）の業務説明会を開催しました。

説明会では、総合土木の職員が具体的な業務内容や福利厚生等について説明したのち、意見交換や質疑応答を行いました。

当県の農業農村整備（NN）事業担当部署では、農業土木を学ばれた方や、農業土木職として働きたい方を随時募集しています。

興味のある方は、ぜひホームページをご覧ください！



北里大学説明会

宮城県人事委員会
採用情報トップページ
はこちら↓

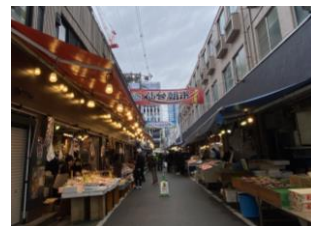


弘前大学説明会

宮城の冬に根付く 伝統野菜はいかが？



先日、仙台駅前にある仙台朝市に行ってきました。冬の美味しい味覚がずらり並んでいるなか、度々目にしたのが「仙台〇〇」と称される宮城の伝統野菜たち。宮城県の冬は、雪が少なく寒さもそれほど厳しくないことから、昔から冬場の営農が根付いていました。今回は、仙台朝市で見つけた宮城の冬の伝統野菜を4つご紹介します。



①宮城の名産！仙台セリ

名取川の豊富な伏流水を利用し水田で栽培され、その起源は江戸時代にさかのぼります。新芽を収穫し4～6月に出荷される葉セリは爽やかな香りが、9～3月に出荷される根セリは歯ごたえと強い香りが特徴で、厳冬期は一番風味があり、美味しいとされています。



②仙台発祥！仙台曲がいねぎ

明治時代に仙台市岩切の余目地区あまるめで栽培が始まりました。余目地区は周辺が水田で地下水位が高く、野菜が根腐れしやすい環境であることから、生育途中のねぎを抜き斜めに植えなおす方法で栽培されました。一度抜かれた状態から立ち上がるとうとする生命力の強さが、甘みの秘訣だとか。



③塩害に強い。仙台白菜

仙台白菜は大正時代に誕生しました。一時期は生産量が減少し、市場から姿を消していましたが、塩害に強い特徴があることから、東日本大震災後に被災農地で栽培が復活され、少しずつ生産量が増えています。柔らかくて甘みが強く絶品です。



④甘さと苦さのハーモニー！！仙台雪菜

江戸時代から栽培が始まったといわれています。霜にあたると甘さが増し、宮城の厳しい寒さに耐えた仙台雪菜だからこそ味わえる甘さと苦さのハーモニーが絶品です！カルシウムやビタミンが豊富に含まれて、栄養も満点です。



仙台朝市で購入した野菜は、石巻産の牡蠣と一緒に鍋にしました。白菜とねぎの甘みが、雪菜のほろ苦さとマッチし、さらにセリの香りが絶妙なアクセントとなり、心も体も温まる最高の鍋でした！皆さんも、宮城の栄養満点な冬の味覚を、ぜひご賞味ください。



～宮城県農業農村整備関係部所一覽～

県庁農政部		県出先機関	
農山漁村なりわい課	022-211-2657	大河原地方振興事務所	農業農村整備部 0224-53-3111
農山漁村調整班、交流推進班		仙台地方振興事務所	農業農村整備部 022-275-9111
中山間振興班、6次産業化支援班		北部地方振興事務所	農業農村整備部 0229-91-0701
農村振興課	022-211-2861	北部地方振興事務所	栗原地域事務所 農業農村整備部 0228-22-2111
指導班、企画調整班、地域計画班、		東部地方振興事務所	農業農村整備部 0225-95-1411
技術管理班、広域水利調整班、		東部地方振興事務所	登米地域事務所 農業農村整備部 0220-22-6111
農村整備課	022-211-2871	気仙沼地方振興事務所	農業農村整備部 0226-24-2121
事業経理班、換地・用地班、ほ場整備班		王城寺原補償工事事務所	022-345-5175
水利施設保全班			
農村防災対策室	022-211-2875		
防災対策班、ため池対策班			

問い合わせ先

〒980-8570 仙台市青葉区本町3丁目8番1号

宮城県農政部農村振興課企画調整班

電話：022-211-2863 E-mail：nosonshin@pref.miyagi.lg.jp

農村振興課HP：https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosonshin/